
ぬるい包丁

しめじ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ぬるい包丁

【Nコード】

N4276I

【作者名】

しめじ

【あらすじ】

シュルレアリスムを意識しています。3分程度で読めるものとなっています。突飛さと描写に重点を置いています。

私は逃げた女も男も殺してやろうと包丁を握りしめて立っていた。

すると戸を叩くものがあつた。間が悪いことこの上ないなと思つて居留守を決め込んでいると、鍵が回って戸が開いた。

戸の外には色の白い美しい女が立っていた。女は黙って私の持つ包丁を見ている。私は取り繕うようにしてまな板の上のにんにくを刻みだした。台所ににんにくの匂いが広がる。女は長い髪を揺らしながら微笑んでいた。小さい顔に似合わない真っ赤な紅を差していた。

「お水をいただけるかしら」

女は勝手に寝室に上がり込んでベッドに横になる。むき出しになったふくらはぎがとても白い。ずいぶんぞんざいな態度だなあと思うが水を汲んでやる。コップを渡すと彼女はそれを一息に飲みほした。口からこぼれた水がむき出しの鎖骨にこぼれて玉になっている。女の足はなぜか土で汚れていた。

女の肌は白く瑞々しくて触れると暖かいだろうなと思われた。右腹を下にして寝転がっている女。黙ったまま私の顔を見つめている。早く帰ってほしいような、このまま側にいてほしいようなよく分からない気分になっていた。

「隣にきて」

ベッドの片側を叩いて女は笑った。私は無抵抗に女の隣に横たわ

る。女の赤い唇が寄ってくる。反射的に瞳を閉じると、女はまぶたに指を触れた。そして親指と人さし指とでまぶたをこじ開けると、そこへ舌先をちょこんとあてた。眼球から電気が走った。私は驚いてベッドから飛び起きた。胸の内側で心臓が暴れる。そんな私を見て女はクスクスと笑った。

逃げた女と男の声が外から聞こえてきた。すぐに台所から包丁を持ちだして外に飛び出す。家の外には靄が掛かっている。一寸先も見えない。舌打ちをしながら手探りで通路を確認する。いきなり後ろからにゅっと腕が伸びてきて首元に巻き付く。白く滑らかな腕。女の腕だ。彼女の体温が首元に伝わってくると急に眠たくなってきた。

「ツユクサにくちづけを」

女はそう言ってしきりに私の眼球に舌を這わせる。女の舌先が触れる度に白い光が頭の中を右から左、左から右へと走り過ぎる。何か訳の分からないことを耳もとで囁きながら私の身体全身を撫でさせる女。私はもう眠くてたまらなかった。女の唇が私の唇に触れた。ぬるぬると生臭い感触。逃げた女も男もどうでもよくなっていた。

いつの間に眠っていたのだろうか。起きると女の姿はなかった。口元を拭うと赤い紅が手の甲に付着した。手を洗おうと流しに行く。と逃げた女と男が折り重なって倒れていた。二人とも頭から血を流している。ひっと喉の奥に悲鳴が引っ掛かって尻餅をつく。女の背中には家の包丁が刺さっていた。

とんとんと戸を叩くものがある。この惨状を見られたらことだと思ふのだが、腰が抜けて動けない。やがて鍵が回って戸が開いた。

戸の外にはあの女が立っていた。女は黙って部屋に入ってくる。

外が寒いのか唇が紫色をしている。靴は履いていなかった。

女は死体を見つめる。逃げた女の手にはツクサが握られていた。女は血まみれの花に唇を這わせる。そして死体の目玉を舐めていた。逃げたいと思うのだが全身の筋肉が重く痺れている。女は振り返り私を見て笑った。真っ赤な紅を差していた。舌先を蛇のように出しながらにじり寄ってくる。声にならない悲鳴を上げて私は気を失った。

気がつくともベッドの上に横たわっている。薄暗い部屋の中には女の姿はない。恐る恐る流しを覗くとまな板の上に包丁とひからびたにんにくスライスが置き忘れてある。死体など転がっていないかった。

三角コーナーににんにくを捨てて包丁を手取る。柄が暖かい。とんとんと戸を叩くものがある。耳もとがざわざわと騒ぎ出す。やがて鍵が回って戸が開く。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4276i/>

ぬるい包丁

2011年10月10日01時02分発行